月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第１２号

発行:レムナントキリスト教会

価格:１００円（送料込みで２００円）

〔目次〕

◎聖書からのメッセージ:キリストは復活した　エレミヤ
◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(8)「進化論に関する科学者の見解」
◎箴言から学ぼう！:怒りを内におさめる
◎詩篇を読む:方向転換をする
◎キリストを信じた体験談:神さま（イエスさま）に変えていただいたこと（3）
◎聖書に関する偉人のことば:トーマス・エジソン
◎ご案内:聖書贈呈、聖書通信講座

＜聖書からのメッセージ＞

キリストは復活した

by エレミヤ

〔聖書箇所〕Ｉコリント人への手紙15:3,4
15:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、
15:4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、

今回は「キリストは復活した」として、このことを見ていきましょう。イエス・キリストは聖書の中心的な人物です。キリストの生涯において、他の人とは異なる多くの大事なことがありますが、その特筆すべきこと、もしかすると最も大事なことは、キリストが復活した、という事柄です。復活とはどういうことか？と言うと、ことばの意味合いとしては誰でも知っているとは思うのですが、要するに死人が生き返る、一度死んでしまった人が再度蘇る、ということです。

キリストは一度死んだけれど、もう一度生き返った素晴らしい人だ、と私たちが語ったとして、ああそうですか、素晴らしい人ですね、と皆が同意するとは、さすがに私たちも思ってはいません。むしろ、そんなわけはないだろ、いくらキリスト教徒だって、そんなこと本当は信じていないだろう、多分ことばのあやや、物語として書かれているのだろう、と思うかもしれません。でも、一応私たちのスタンスや立場をはっきりさせなければならないと思いますので、申し上げます。私たちは、（少なくとも私たちの教会では）このこと、キリストが一度死んだけれど、もう一度蘇ったということを掛け値なしに本当だ、と信じています。

キリストは復活した　エレミヤ

私たちにとって、キリストが死んだけれど、しかし蘇ったということは、歴史的な事実であり、たとえて言うなら、江戸幕府を開いたのが徳川家康だったというくらい明確な事実であり、疑いようのないことだと思っています。それは、お前が狂信的であり、科学的なことに無知だからなのではないか、人間に限らず、生物は一度死んだら生き返らない、ということが科学的な常識であることを知らないのか、という風に言われてしまうのかもしれません。ですが、一応簡単に少しだけ反論させてください。

＜キリストの復活を多くの科学者が信じている＞

私が無知であり、科学的な知識が無い、ということは、もしかするとそうかも知れませんので、特に反論はしません。ただ、少し申し上げるなら、このようなこと、すなわちキリストの復活も含めて、聖書のことばや、そこに書かれた奇跡を信じる人々とは、単なる無知な人々とは限らず、世界の偉人や有名な科学者と呼ばれる人々の中にもおられることは覚えておいてください。

たとえば、アンブローズ・フレミング（電気に関する「右手の法則」「左手の法則」で有名な英国の物理学者）は、こう述べています。

「四つの福音書にあるこれらの出来事（復活とその他の奇跡）の記録を研究してみなさい。そうすれば、あなたは確証済みの科学的事実や科学の原理の中には、何一つ奇跡を信じることを妨げるものはない、ということが分かるであろう。」と。

彼は有名な物理学者でしたが、それと共に聖書を書かれた神を認め、また、キリストの復活の事実を認めていたのです。無知な人や狂信的な人だけがキリストの復活を信じているわけではないことが分かるでしょうか。

＜三代に渡る東大の総長もキリストの復活を信じるクリスチャンだった＞

さらに、と付け加えると嫌味のようで恐縮なのですが、日本に目を向けるなら、東京大学の総長は三代に渡って、聖書のことばを文字通りに信じるクリスチャンでした。前号でお知らせしました矢内原忠雄は、その一人です。東大は日本で一番難しい大学ですし、そのトップである総長ともなれば、もっと無知な人ではないでしょう。というより、彼らは日本のトップクラスの知性です。しかし、彼らはキリストの復活を始め、聖書のことばを文字通りに信じていました。ですので、死人の蘇り、と聞いて、そんなことあるはずはない、と思うのは自然の反応だとは思います。しかしこのことは、無知な人だけが信じる、という事柄ではなく、この国のトップの知性にあたる人々さえ、信じている事柄なのです。彼らは聖書のことばを熟慮して、そして信じるに値する事柄であると結論付けたのです。ですので、キリストの復活という多くの日本人が一笑に付す事柄は、じつは単なるおとぎ話というより、真面目に考慮するに値する事柄なのである、ということは知ってください。

＜キリストの復活は旧約聖書の中で預言されていた出来事＞

冒頭のテキストには、**「また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと」**と書かれています。**「聖書に従って～よみがえられた」**とは、どういうことか？と言うと、イエス・キリストが死から蘇るということは、聖書に前もって預言されていた出来事である、ということです。死人の蘇りはたしかに驚くべきことで、普通にはあり得ないことなのですが、しかしそのことは、キリスト誕生以前に書かれた聖書の中で前もって預言されており、ある意味神の想定内の出来事だったのです。事実、キリスト誕生の１０００年も前に書かれた詩篇の中で、ダビデは以下のように語り、預言しています。

〔聖書箇所〕詩篇16:10
16:10 まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。”

「よみ」とは、死者が行くところです。キリストは十字架で肉体の死を迎えたあと、その魂は、死後の世界である**「よみ」**に行かれたのです。しかし、その**「よみ」**に長い間とどまったり、捨て置かれたわけでなく、死後３日目に蘇られました。

キリストは復活した　エレミヤ

まさにこのことば、**「あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず」**とは、キリストの生涯に成就しているのです。

＜復活の意味合い＞

ところでと言いますか、なぜイエス・キリストは復活したのでしょうか？このことにどういう意味合いがあるのでしょうか？そのことも考えてみましょう。一つは、復活はイエス・キリストという人の特殊性を表すものです。聖書はイエス・キリストこそ聖書の中心人物であり、この方による以外救いはないことを語っています。そして、このキリストは多くの奇跡を行っています。いわく、らい病の癒し、耳の聞こえない人の癒し、目の見えない人の癒し、食物を増やす奇跡などなどです。しかし、それらのどの奇跡にもまさってイエス・キリストの復活はこの方の特殊性を示します。なぜなら、死人から蘇った人など歴史上、まずいないからです。

それに引き換え、と引き合いに出しては恐縮ですが、仏教ではその創始者である釈迦の骨が尊重されます。仏舎利と呼ばれているようです。たしかに釈迦の骨は尊いのでしょうが、しかし骨が残っているということは、彼が我々と同じように、死んで葬られた普通の人間であることを示すものなのです。彼が死に勝ったことを示すのではないのです。それに反して言うと、恐縮な言い方なのですが、キリストの骨は残っていません。キリストが死に勝ち、蘇られたからなのです。神がたった一人の救い主を送られたとき、このキリストこそ神の遣わした方である、とのいわば間違えようのない目印として、復活をキリストに行ったのです。ですので、今まで歴史上復活した人などいないからキリストの復活などあり得ない、という論理ではなく、歴史上かつて無かった復活をキリストが行ったからこそ、このキリストが、神が送られた唯一の救い主である、と理解できる、との論理が正しいのです。

＜キリストの復活は我々が持つ永遠の命への希望＞

キリストが復活したことのもう一つの意味合いは、それはキリストが我々に先立って、もしくは我々のように神を信じる者の代表、トップランナーのように復活し、死に対して勝利を得たので、キリストを信じる我々も同じ復活の希望を持つことが出来る、ということです。

聖書は以下のようにキリストを信じる者は、永遠の命を持ち、神の怒りの裁きに会わないことを語ります。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書3:36
3:36　御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる。

このように聖書は、キリストを信じる者が永遠の命を得ることを語りますが、しかし問題は、我々はどのようにして、このことばが真実である、と知ることができるのかということです。悪い言い方をするなら、こうも言えるかもしれません。すばらしい約束や希望のことばは誰でも語ることはできるが、しかし問題はそれが実現するかどうかである、と言えるのです。

このキリストの約束、我々が永遠の命を持つとの約束が事実であり、真実であり、単なる口約束ではないことをどのようにして知ることができるのでしょうか？このような疑問に対して強力な答え、確認を神は与えられました。それがキリストの復活なのです。論より証拠、歴史上に起きたキリストの復活が答えなのです。この復活が単なる空想ではなく、歴史的な事実であるからこそ、キリストを信じる我々も、同じく現実に死から復活するとの希望を持つことが出来るのです。

キリストは復活された

高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(8)進化論に関する科学者の見解

人はどこから誕生したのか？その問題に関して聖書は「神が人を創造した」と述べます。しかし日本においては、学校で進化論が教えられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか？それをこのシリーズで見ています。

「進化論は疑いようのない科学的事実である」ということは、私たちにとっては常識かもしれませんが、しかし、進化論の実態を知っている科学者の間ではそうでもありません。以下いくつかの声を列記します。

▼スミソニアン協会の著名な生物学者オースチン・H・クラーク博士は、率直にこう述べました。

「人間が下等な生命形態から、段階的に発達してきたという証拠はない。いかなる形においても、人間をサルに関連付けるものは何もない。人間は突然に、今日と同じ形で出現した。」

▼英国博物館の古生物学者コーリン・パターソン博士は、１９８１年にニューヨークの博物館の公開集会で、５０人を越える分類学の専門家や来賓に対して次のように語りました。

「私も最近まで、ギレスピー（創造論に反対する進化論者の一人）の見解をとってきました。しかしその時、『目が覚めた』のです。『私は長い間、進化論を何か啓示された真理でもあるかのように思い込まされ、騙されてきたのだと気付いた』のです。」

▼イヤランゲン大学の進化論者アルバート・フライシュマン教授は、**「進化論には重大な欠陥がある。時が経つにつれて、これらの欠陥は一層明らかになってきた。もはや実際の科学的知識と一致しないし、事実を明確に把握するにも十分とは言えない」**と言っています。

▼カナダの偉大な地質学者ウイリアム・ドーソンは、**「人間の不可思議な現象の一つだ。何しろ、あれには証拠がまったくないのだから。」**と言っています。

▼英国の科学振興協会会長アンブローズ・フレミングは、**「進化は、根拠のない信じ難いもの」**と言っています。

▼また、アメリカ原子力委員会のＴ・Ｎ・タシミアン博士は、**「進化を生命の事実としてふれまわる科学者は、甚だしく人を欺くものであり、その語るところは、最大の人かつぎとなりかねない」**と述べ、進化論を、**「ごまかしと、あてずっぽうの、込み入った寄せ集め」**と呼びました。

▼かつては、「棲み分け理論」で世界的に有名な進化論学者であった文化勲章受章者の「今西錦司氏」（京大名誉教授は、研究すればするほど進化論の矛盾に気付き、ついには研究を断念して、なんと自ら「科学者廃業宣言」を新聞に発表したのです。「進化論は学問にあらず」と言いたかったのでしょう。 今西教授は非常に良心的な科学者であっただけに、間違えた学問を教えてきた者としての責任を取ったものと思われます。

ネブラスカ人発見のもととなった歯の化石:後にイノシシの歯に過ぎないことが判明

箴言から学ぼう！:怒りを内におさめる

〔聖書箇所〕箴言12:16
12:16 愚か者は自分の怒りをすぐ現わす。利口な者ははずかしめを受けても黙っている。

最近のことはよく分かりませんが、かつて「キレる」なんていうことばをよく耳にしていたことがありました。賢くて頭がよくキレる、という意味合いなら良いのですが、しかしそうではなく、何か「カチン」とくることを誰かから言われたり、されたりしたときに、そういうことばが使われていたように思います。もちろん今でも、時として使われているのかもしれません。

ところで聖書においては、「怒り」に関して、若干厳しいことが言われております。**「愚か者は自分の怒りをすぐ現わす」**とあるのですが、「怒り」を発してしまうというときに、神さまの前には**「愚か」**だと見なされてしまうようです。もちろん私たちは感情がありますので、時として怒る、なんていうことはあると思います。聖書の別の箇所に、**「怒っても、罪を犯してはなりません。」（エペソ人への手紙4章26節）**と書かれている通りでありまして、私たちが「怒り」を発してしまう、ということは、神さまのほうでもよくよくご存知なのです。ですので、「怒る」ということを否定は出来ないのは、一面の事実ではあるのですが・・・しかしだからと言って、感情のままにそれをあらわにして良いのか？と言うと、それは違う、ということを上記聖句は述べているのであります。

そして、**「怒っても、罪を犯してはなりません。」**と言われていますように、「怒り」のために、「罪」を犯してはいけないのです。これは恐らく、「怒り」というのは、「罪」に発展しやすい、だから気を付けていきましょう！なんてということを言われているのでしょう。

大分前に、クリスチャン著のある本に、「怒りのために地獄へ行くことのないように気を付けましょう」というようなことが書かれてありました。その文章を読んで、「ああ、たしかにそうかもなぁ。」と思いました。そうしたところ、のちになって、**「肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」（ガラテヤ人への手紙5章19～21節）**と書かれている聖書箇所を見付けました。そのときに、「ああ、あのことは本当だったんだぁ。」と、改めて理解しました。

では、そうならないようにするには、どうすればいいのでしょう？また、万が一にも、「怒り」の感情がわいてきたときに、心の内側におさめるためにはどうしたらよいのでしょうか？そのヒントが以下、書かれております。

〔聖書箇所〕ガラテヤ人への手紙5:22,23
5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、
5:23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

ここに、**「御霊の実は～自制です。」**とあるのですが、これらを祈り求めていくことにポイントがあります。**「御霊の実」**とは、どれもこれも先ほどの**「不品行、汚れ～遊興」**とは反対のものになります。ですから、**「御霊の実」（愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制）**を熱心に求めていくときに、「怒り」や「憤り」の感情がきたとしても、それらをおさめることが少しずつ身に付くようになります。しかもごく自然に、そして無理なくできるようになっていきます。そしてそのことを繰り返していくうちに、だんだんとイエスさまのご性質にも似てくるのであります。それこそイエスさまというお方は、聖書にもありますように、「柔和」とか「へりくだり」というものをそのまま描いたようなお方ですので、実行に移していくのなら、私たちの上にも同じことが実現していくと思われるのです。その延長線上において、「天の御国」も約束されていくのでは？と思います。もし、「そうかもしれない」なんて思われましたら、ぜひ実践していきましょう！

利口な人は、怒りやはずかしめを受けても黙っている

詩篇を読む:方向転換をする

〔聖書箇所〕詩篇7:10-13
7:10 私の盾は神にあり、神は心の直ぐな人を救われる。
7:11 神は正しい審判者、日々、怒る神。
7:12 悔い改めない者には剣をとぎ、弓を張って、ねらいを定め、
7:13 その者（KJV:迫害者）に向かって、死の武器を構え、矢を燃える矢とされる。

上記聖句の中に、**「悔い改め」**ということばがあります。**「悔い改め」**と聞くと、ちょっぴりオーバーな印象を受けるかもしれませんが、英語訳では、“turn”（変える）ということばが使われています。そうですねぇ。今まで右へ向かっていたけれど、今度は左へ向きを変えると、そんな感じですかね？もっと簡単に言えば、今までとは、逆にする、ということではないかと思います。

それで・・・１１節に、**「神は正しい審判者、日々、怒る神」**とありますように、神さまは、お一人一人のことをもれなくチェックしておられて、さらに、ひとつひとつのことを正しく判断されていて、場合によっては怒りを発せられるのであります。さて、神さまはどんなことに対して怒られるのか？日本語の新改訳聖書には書かれていないのですが、ＫＪＶ訳では、**「怒る」**のあとに、「悪い」「邪悪な」「罪深い」「意地悪い」ということばが追加されていますので、これらのことに対して怒られるのでしょう。

さらに、それで終わるのか？と言うと、そうではなく・・・**「悔い改めない者には剣をとぎ、弓を張って、ねらいを定め、その者（KJV:迫害者）に向かって、死の武器を構え、矢を燃える矢とされる。」**と書かれている通りでありまして、的確な罰が下されるのであります。神さまがこういうことをなさるのは、それは単なる腹いせとか意地悪でするのではありません。それはそのまま行くと危ないから、もっと言うと、死後、滅んでしまって、火の池（地獄）に入ってからでは遅いからなのです。ですから、もし何か神さまから語りかけや指摘を受けたときには、頑なにならずに、すぐに方向を変えていきたいと思います。

過去、あるクリスチャンから聞いた話なのですが・・・ある時、その人にトラブルが起きたそうです。そのときにとっさに、「ああ、あのことでは？」と思い当たることがあったそうです。ですが、すぐに悔い改めることを拒んだそうです。すると、さらにそのトラブルはひどいものとなり、やがては日常生活にも支障をきたすほどになっていったそうです。そして半年後、思い切って神さまの前に罪を認めて悔い改めたそうです。そうしたところ、トラブルは見事に解決されたそうです。それで、「ああ、もっと早く悔い改めれば良かった」とおっしゃっていました。

この話は一例ではありますが、しかし、その人にかぎらず、神さまが、「これは・・・」と思う事柄に関しては、すべてそうされるのです。当然、著者もその一人であります。自慢することではありませんが、著者もその人と似たような経験をいくつかしております。しかしポイントは、罪を犯してそれで神さまから指摘を受けて、もうダメだ～、ということではなくて、たとえそうだとしても、しかしそこで頑なになってしまうのが良くない、ということをこの聖句では述べているのであります。

ですから、繰り返して申し上げますが、もし罪を犯してしまったり、これは罪かもしれないなぁ、と思うことがありましたら、すぐに悔い改めて（方向転換して）いきたいと思います。別の箇所には、**「自分のそむきの罪を隠す者は成功しない。それを告白して、それを捨てる者はあわれみを受ける。」（箴言28章13節）**ともありまして、神さまの前に罪をきちんと告白して捨てていくときに、あわれみを受けますので、そうしていきたいと思います。そして、すぐに応答する人は、冒頭の聖句の１０節にありますように、**「心の直ぐな人」**と神さまに見なされ、救われますので、ぜひおすすめいたします。

反対に、**「自分のそむきの罪を隠す者は成功しない。」**という風に、どこまでも心を頑なにして悔い改めないというときに、詩篇の１２,１３節のことばが、ふりかかってしまいますので、そしてあわや、**「死」**（永遠の滅び）に引き渡されてしまう可能性がありますので、気を付けていきたいと思います。よろしければ、このようなこともご理解いただけると幸いに思います。

悔い改めないときに、神から矢が送られる

キリストを信じた体験談:神さま(イエスさま)に変えていただいたこと(3)

今回も神さまに変えていただいたことについて、話したいと思います。クリスチャンとして歩んでいく中で、いくつか変えていただいたことがあるのですが・・・その中のひとつに、「集中力」というものが、多少なりとも身に付くようになりました。

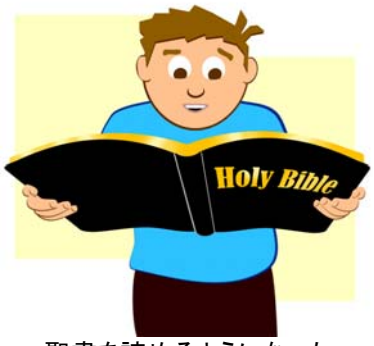
かつて、私は習い事をしていたのですが、「まったく集中力がないね」と人から言われたことがありました。ですから、上達するなんていうことはほとんどありませんでした。習い事にかぎらず、学校の勉強もそうでした。まず、スイッチが入るのに時間がかかり、その上、恥ずかしくて言えないくらいのスローペースで、はたまた集中力にも欠落していて長続きせず、という感じでしたので、周囲の人たちにもあきれられていました。

それでこういうことが、クリスチャンになって解消されたか？と言うと、そうではなくて・・・クリスチャンになると、普通は多少なりともお祈りをしたり、聖書を読んだりするのですが、それも苦手でほとんどしていませんでした。なぜかと言うと、このことも「集中力」を要するからでした。しかも以前、チラッと話したかもしれませんが、本を読むのは子どもの頃から大の苦手でしたので、聖書も同じでした。

しかし、そんな私にも、ある転機が訪れました。以前の教会もそうでしたし、今の教会でも、「お祈り」のことがすすめられていました。しかも一日１分や２分というレベルではなく、いずれも１時間以上でした。また、聖書を読むことに関しても、１、２行ではなく、年に２、３回の通読をおすすめしていました。そのときに、さすがに少し考えました。今の状態ではダメだ、と。でも、そのためには、いずれも集中力をつちかわなければならない、どうしたらよいものだろうか？と。色々と思いめぐらした結果、まずは集中力が与えられるように、そのためにお祈りをしてみよう！と思い、少しずつ実践してみました。始めの頃は、それすらなかなか出来なかったのですが、しかし神さまの助けと力によって、次第に出来るようになり、やがてそれは、聖書を読んだり、お祈りをしたりするという方向へとつながるようになりました。そのための集中力が養われたのでした。

当初、こればかりは無理だろう、どんなことがあっても変えられないだろう、と思っていたのですが、しかし神さまに祈って求めた結果、このことも見事に変えていただくことができました。それにかぎらず、神さまに関するその他の事柄に関しても、そんな風になっていきました。けれども不思議なことに、神さまとはあまり関係の無いことに関しては、相変わらずで･･･どれもこれも飽きっぽく、長続きしない、集中できない、という感じです。ではありましても、お祈りをしたり、聖書を読んだり、また、ほんのわずかでも神さまの働き（ボランティア）にあずかれることを、非常にありがたく思っております。最後に聖句を読んで、終わりにしたいと思います。

“万軍の神、主。だれが、あなたのように力がありましょう。主よ。あなたの真実はあなたを取り囲んでいます。（詩篇89篇8節〔新改訳聖書〕）”

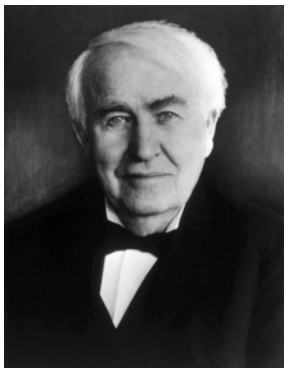


聖書を読めるようになった

聖書に関する偉人のことば:トーマス・エジソンのことば／お知らせコーナー

＜聖書と偉人＞

トーマス・エジソン:生涯におよそ1、300もの発明を行ったアメリカの発明家、起業家



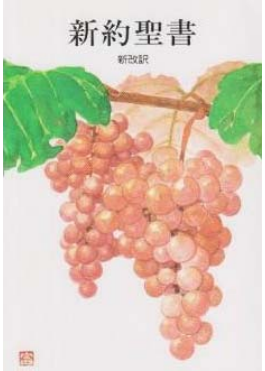
「光、暖かさ、健康、力はすでにもう存在しているのですから、スイッチを入れさえすれば良いのです。電線そのものは別に何でもありません。絶縁された2、3本の銅線に過ぎないのです。しかし、その線の中をプラスとマイナス2つの電流が流れると、すべてが変わってきます。暗黒は失せ、冷気はなくなり、仕事もたやすくできるようになります。聖書は単なる本にすぎませんが、神の御霊によって霊感されている聖書の各ページを、神の義と愛とが、プラス・マイナスの2つの電流のように流れ、キリストの十字架で合流しています。聖書だけが、私たちに救い主を示してくれます。そのことによって聖書は、私たちの全生涯を造り変えることができる力の泉となるのです。あなたは誘惑に会い、疑惑と敗北と弱さに満ちたご自分の生活に疲れてはいませんか。また、不安や心配に飽き飽きしてはいませんか？スイッチを入れなさい。聖書を読みなさい。」

＜お知らせコーナー＞

●聖書贈呈プレゼント！聖書通信講座！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？また、ご希望の方には、聖書通信講座も開設しました。申込者全員へ、贈呈可能です。ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020－4623－5255 もしくは tel:042－364－2327 へ連絡ください。



見本

（1）聖書贈呈に申し込みます。
（2）聖書通信講座に申し込みます。
＊ご希望の番号に○をつけてください。（複数可）

郵便番号:
住所:
名前:

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30－12:30,午後 14:00－16:00
場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館（tel:042－360－3311）
1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042－364－2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。
ご興味のある方は、"Yahoo！Japan"で、「府中　レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ＆ミルトス
http://remnantnotudoi.jimdo.com/
☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋
http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/